

[講演要旨] 安政江戸地震(1855)による江戸市中の町別死者数

都司嘉宣(東大地震研)・松岡祐也(東北大災害制御研究センター)

『日本地震史料』(武者、1951)のp495~522に、城東山人が記した「破窓の記」という文献が掲載されている。これには、当時の江戸にあった473個の町での死者数が記されている。「町方横死人の数は、さる掛りの者より書出しの写を借得しの儘、後証の為として左に載ぬ」と説明されており、各町の公的な報告文書を筆写したものと認められる。江戸市中の約70%の面積を占めていた、武家地、寺院敷地内についてはこの記録にはいっさい記されていない。ここに記された町名を当時の「切絵図」によって、402個の町について、その各々の位置、範囲を確定できた。浅草寺の北部、当時の新吉原の地区、日光街道に沿った町、本所、深川、富岡など隅田川の東側の街区、および、竪川と小名木川にそった街区で多くの死者を生じていることが注目される。

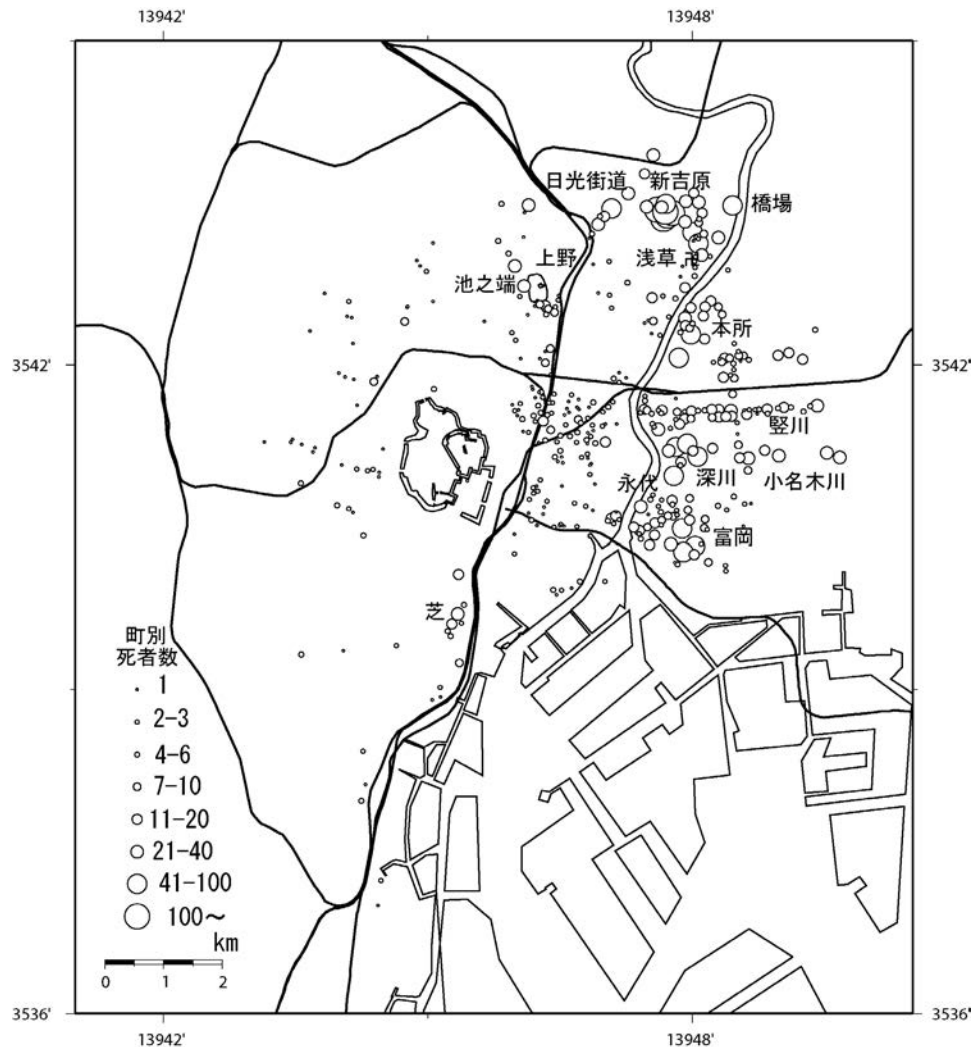


図 安政江戸地震(1855)による江戸市中の町別死者数